

法学教室 2023年度 内容一覧  
2023年4月号(No.511)～2024年3月号(No.522)

巻頭言	執筆者	掲載号	頁
法学研究の悩みどころ	橋爪 隆	511	1
上場会社の役割	神作裕之	512	1
契約または債務の「本旨」とは何か	森田宏樹	513	1
試験問題の評価	松下淳一	514	1
法の常識と非常識	川出敏裕	515	1
現代における大師号授与——先月号の特集に寄せて	斎藤 誠	516	1
警職法改正問題	小島慎司	517	1
牧野富太郎の植物学研究	橋爪 隆	518	1
人権とビジネスローの接点	松井智予	519	1
相殺を予定した同時履行の抗弁権	森田宏樹	520	1
野菜の直売所	松下淳一	521	1
ルール違反を減らすには	川出敏裕	522	1
<b>法学のアントレ(73)～</b>			
コンニャクイモは生野菜か？	小石川裕介	511	2
西洋法制史と裁判事例	松本尚子	512	2
フランス法の教室から——フランスの判例を読みましょう	吉井啓子	513	2
論拠の明示,「判例が法である」こと	板持研吾	514	2
裁判官の判断とは？	齋藤宙治	515	2
判例廃止論——法哲学から判例を疑う	吉良貴之	516	2
元町映画館の話	大木正俊	517	2
自動車マニアと孤独な日記 ——あるいはキュークローペスと自由のための連帯について	岡野誠樹	518	2
ある寒い日に	澤田悠紀	519	2
臭い所へ無期徒刑	酒井智大	520	2
アニメは刑事訴訟法の未来を創造する	中川孝博	521	2
「文化芸術」基本法	中村美帆	522	2
<b>学校をホウガクする(1)～(9・完)</b>			
学校で起きる紛争の特殊性と法律家に期待される役割	佐藤香代	511	4
多様性——性的マイノリティと学校	尾形 健	512	4
いじめ——学校は法の求めに応えられるのか	村山 裕	513	4
不登校——法的考察	横田光平	514	4
部活動——身近ではば広いもの	宮島繁成	515	4
学校と法——子ども法の視点から	横田光平	516	4
懲戒——現状・法規制・裁判例と課題	三坂彰彦	517	4
校則——排除しないルールへ	遠藤美奈	518	4
スクールロイヤーには、どのような役割が期待されているか	佐藤香代	519	4
<b>特集</b>			
[4月号(511号)]			
<b>特集 基本概念の基礎をおさえる法学入門</b>			
I 憲法:「憲法」	南野 森	511	12
II 行政法:「適正手続」	北島周作	511	17
III 民法:「人」	小粥太郎	511	23
IV 商法:「株主平等の原則」	山下徹哉	511	28
V 民事訴訟法:「手続保障」	長谷部由起子	511	33
VI 刑法:「法益保護」	高橋直哉	511	38

VII 刑事訴訟法:「当事者主義」	田淵浩二	511	43
〔5月号(512号)〕			
<b>特集 憲法 もう少し聞きたい現代的論点</b>			
I 家族と憲法——同性婚という家族の始点から	西村枝美	512	10
II 放送と憲法	鈴木秀美	512	15
III 知的財産権と憲法	大日方信春	512	20
IV 学問の自由と大学の自治	松田 浩	512	25
V 平和主義	齊藤正彰	512	30
VI 比較憲法の学習の面白さ	塚本俊之	512	35
〔6月号(513号)〕			
<b>特集1 民法研究の最前線から学ぶ</b>			
I 契約の解釈における表示の意義	山城一真	513	10
II 契約の解除と価額償還義務	中村瑞穂	513	17
III 債務不履行に基づく費用賠償	金丸義衡	513	23
IV 債権者の共同担保に関する流動性	瀬戸口祐基	513	29
V 双務契約上の債務の牽連性と相殺の担保的機能	岩川隆嗣	513	35
<b>特集2 法学部生のための文章カステップアップ</b>			
〈対談〉法学部生のための文章カステップアップ	上田健介・衣笠葉子	513	42
法学部生の就活文章に効くコラム	有村千裕	513	55
〔7月号(514号)〕			
<b>特集 刑法 議論が深まった論点を押さえる</b>			
I 自招侵害・自招危難をめぐる近年の議論	照沼亮介	514	10
II 実行の着手	城下裕二	514	15
III 共謀の射程	十河太郎	514	20
IV 住居侵入罪	齊藤彰子	514	26
V 詐欺罪における実質的法益侵害	松原芳博	514	31
VI 死体遺棄罪	嶋矢貴之	514	36
〔8月号(515号)〕			
<b>特集1 メタバースと知的財産法</b>			
I 現実世界をメタバース内に再現する際の諸課題	蘆立順美	515	10
II 現実世界のデザインとメタバース内のアイテム	青木大也	515	15
III 知的財産権の対象としてのアバターの名前・肖像(あるいは私自身)	誠子夜火猫(金子敏哉)	515	20
IV メタバースにおける活動	駒田泰土	515	25
V メタバースにおける権利侵害・トラブル	中崎 尚	515	30
VI NFTを活用した仮想オブジェクト等の取引と著作権法	谷川和幸	515	35
<b>特集2 宗教・宗教団体と法</b>			
1 宗教と法——法と理性と宗教と	安藤 馨	515	41
2 日本国憲法が信教の自由を規定することの意味	山本健人	515	46
3 宗教法人法と国家の権限	田近 肇	515	50
4 宗教団体の経済活動と法	棚村政行	515	54
〔9月号(516号)〕			
<b>特集 会社法理論の進展と実務の動向</b>			
I 株式の相続——株式の準共有を中心に	仲 卓真	516	10
II 買収防衛策の展開とその適法性	松中 学	516	16
III 取締役選任決議の取消し・無効と瑕疵の連鎖	福島洋尚	516	21
IV 取締役会の監督機能	行岡睦彦	516	26
V 取締役の第三者に対する責任	高橋陽一	516	32
VI 組織再編行為における対価の公正と法的救済方法	笠原武朗	516	37
〔10月号(517号)〕			
<b>特集1 現在注目の論議から学ぶ行政法</b>			
I デジタル社会における行政手続	巽 智彦	517	10

II 縮小社会における「参加の行政法」	中嶋直木	517	16
III 情報秩序における公表という手法	天本哲史	517	23
IV 一元的司法制度のもとでの訴訟選択	高畑柊子	517	29
V 国家賠償制度の特質と個人責任・求償	近藤卓也	517	35

### 特集2 トピックで考える租税法

1 インボイス制度の導入——消費税	酒井貴子	517	42
2 法人の租税優遇措置——法人税	長戸貴之	517	45
3 副業をめぐる税制——所得税	加藤友佳	517	48
4 生前贈与と税制——相続税・贈与税	平川英子	517	51
5 BEPS包摂的枠組み——国際課税	堀 治彦	517	54

[11月号(518号)]

### 特集 民事訴訟法学の近時の展開

I 民事訴訟のIT化と民事訴訟法学	青木 哲	518	10
II 任意的訴訟担当と授權	上田竹志	518	16
III 弁論の分離可能性——相殺の抗弁との関係	二羽和彦	518	23
IV 口頭弁論終結後の承継人への既判力の拡張——物権的請求権	下村眞美	518	29
V 独立当事者参加訴訟における二当事者間の和解の可能性	鶴田 滋	518	37

[12月号(519号)]

### 特集 刑事手続法の動向

I 個人情報の取得と利用	尾崎愛美	519	10
II 取調べの録音録画と弁護人の立会い	川崎拓也	519	17
III 被疑者・被告人の逃亡防止	佐藤隆之	519	24
IV 協議・合意制度 井上和治	井上和治	519	31
V 再審法制	加藤克佳	519	38

[1月号(520号)]

### 特集 国際条約は世界を規律するか？

I 国際条約は世界を規律するか？——国際条約の正当性・価値	森 肇志	520	6
II 国家管轄権外区域の海洋生物多様性に関する協定(BBNJ協定)	西本健太郎	520	10
III ハーグ子奪取条約	長田真里	520	16
IV WHO憲章——グローバルに実現すべき「健康」とは何か	西 平等	520	22
V ジェノサイド条約——ジェノサイド犯罪の防止と処罰	玉田 大	520	28
VI サイバー犯罪条約——デジタル化社会の分権的領域秩序とデータの所在地消失	黒崎将広	520	35

[2月号(521号)]

### 特集1 研究者という選択肢

<座談会>研究者の素顔——進路・仕事・生活	興津征雄・神吉知郁子 大島梨沙・品田智史	521	6
<インタビュー>私の選択	大島義則／荻野奈緒 船津浩司／吉開多一	521	26

### 特集2 エネルギー環境法入門

1 気候変動法とエネルギー法の交錯	高村ゆかり	521	39
2 電力市場のグリーン化のための法制度	島村 健	521	43
3 再生可能エネルギーと地域の土地利用	内藤 悟	521	49
4 エネルギー転換を促進する電力システム改革	高橋 洋	521	53

[3月号(522号)]

### 特集 司法は人を救えるか

I 司法はどのように人を救えるのか	飯田 高	522	6
II 司法が個人の痛みを認めないとき——憲法と取消訴訟の原告適格論	小川 亮	522	12
III 救済はどのように実現するのか——国籍法違憲判決を中心に	秋葉文志	522	18
IV 国家賠償訴訟による救済の可能性と限界——国家賠償法1条1項の違法性の観点から	中尾祐人	522	24
V 司法が人を救うとき——府中青年の家事件から振り返る	中川重徳	522	31

<b>国会概観</b>			
第211回国会主要成立法律	梶山知唯	517	57
第212回国会主要成立法律	梶山知唯	522	37
<b>時の問題</b>			
日米の解雇規制と日本における外資系企業による解雇 ——Twitter社等の大規模人員削減を契機として	日原雪恵	512	40
LGBTをめぐる近時の裁判例	春山 習	520	41
国際法上の内政干渉とは何か ——LGBT理解増進法制定を促す米国大使の発言を例に考える	藤澤 巖	520	49
法律案の「一括化」と憲法	大西祥世	522	43
<b>判例クローズアップ</b>			
音楽教室事件・最高裁判決(最高裁判所令和4年10月24日判決)	上野達弘	511	48
令和3年衆議院議員総選挙と一票の較差	河北洋介	516	42
市庁舎前「広場」での集会規制	玉蟲由樹	518	44
<b>新法解説</b>			
令和4年民法改正	羽生香織	514	42
靈感商法関連新法について	河上正二	514	49
令和5年刑法及び刑事訴訟法の一部改正法	北川佳世子／川出敏裕	519	44
<b>講座</b>			
憲法事例分析の技法(13)～(24・完)			
自書できない者の選挙権と投票の秘密	柴田憲司	511	88
学習指導要領と教育の自由	堀口悟郎	512	46
日弁連の特別会費徴収決議	御幸聖樹	513	57
児童扶養手当と障害基礎年金との併給禁止と生存権	柴田憲司	514	55
教授言語と学問の自由	堀口悟郎	515	58
参議院議員選挙における合区の解消	御幸聖樹	516	49
水資源の保持のための採石の禁止と財産権	柴田憲司	517	72
ラブホテル規制条例と地方自治	堀口悟郎	518	50
性同一性障害特例法の生殖不能要件と未成年の子なし要件の合憲性	御幸聖樹	519	56
同性婚と憲法上の権利・平等・制度	柴田憲司	520	55
地方議会代表者会と司法権	堀口悟郎	521	59
旧優生保護法の違憲性と司法的救済	御幸聖樹	522	50
<b>事例で学ぶ行政法ゼミナール(1)～</b>			
行政法とは何か——障害児入園不許可事件	岡田正則	511	58
行政法の基本原理——外国籍公務員管理職試験受験拒否事件		512	54
行政活動の主体と組織——辺野古埋立承認撤回事件		513	65
行政立法と条例——北海道砂利採取計画不認可事件		514	64
行政計画——伊豆道路計画事件		515	66
行政手続——一級建築士免許取消事件		516	58
行政処分——松任市一般廃棄物処理業不許可事件		517	80
行政裁量——経産省トランスジェンダー職員措置要求事件		518	58
行政指導——品川マンション事件		519	65
行政契約——旧福岡町公害防止協定事件		520	64
行政上の実効性確保——浦安漁港ヨット係留用鉄杭撤去事件		521	68
情報公開と公文書管理——沖縄返還「密約」情報公開請求事件		522	60

<b>点と点をつなぐ不法行為判例(1)～</b>			
不法行為法・不法行為責任と権利濫用	中原太郎	517	64
医療過誤訴訟における過失の推定	山本周平	518	64
判例における差額説とその修正 ——人身損害における逸失利益に関する判例法理を素材として	長野史寛	519	71
被害者側の過失	中原太郎	520	70
間接被害者	山本周平	521	74
民法724条1号の短期消滅時効の起算点論 ——手続法および不法行為制度目的論との関連を視野に入れて	長野史寛	522	66
<b>会社法の時計(1)～</b>			
機関設計の多様化	松井秀征	511	65
会議体としての株主総会に関する規律		512	60
株主総会の意思決定権限		513	71
株主総会決議を争う訴え		514	70
取締役会の意思決定事項		515	72
会社代表権の制限等と取引相手方の保護		516	64
利益相反取引の規制		517	86
<b>流れをつかむ民事訴訟法(13)～(24・完)</b>			
書証の取調べと人証の集中証拠調べ(その2)	笠井正俊	511	97
訴訟上の和解等, 訴訟を終了させる当事者の訴訟行為		512	66
判決の言渡しと給付判決の執行力		513	77
判決の確定と確定判決の効力		514	76
上訴		515	78
請求の併合・訴訟係属中の訴訟物の追加		516	70
訴訟係属中の当事者の交代・追加等(その1)		517	92
訴訟係属中の当事者の交代・追加等(その2)		518	72
口頭弁論の分離・併合, 重複訴訟の処理		519	79
一部請求後の残部請求, 相殺の抗弁		520	78
手続保障と訴訟の実効性確保		521	81
IT化後の民事訴訟手続		522	74
<b>近時の判例で学ぶ刑法(1)～</b>			
正当防衛における侵害の急迫性 ——最決平成29・4・26刑集71巻4号275頁	坂下陽輔	511	72
殺人罪における未必の故意 ——最判令和3・1・29刑集75巻1号1頁	大庭沙織	512	73
過失犯における結果回避義務 ——最決平成24・2・8刑集66巻4号200頁	山本紘之	513	84
精神鑑定と責任能力 ——最決平成21・12・8刑集63巻11号2829頁	竹川俊也	514	86
窃盗罪の実行の着手 ——最決令和4・2・14刑集76巻2号101頁	品田智史	515	87
殺人罪の間接正犯・共同正犯 ——最決令和2・8・24刑集74巻5号517頁	小島陽介	516	78
危険運転致死傷罪の共同正犯 ——最決平成30・10・23刑集72巻5号471頁	小島秀夫	517	101
過失犯の共同正犯の成否 ——最決平成28・7・12刑集70巻6号411頁	佐藤輝幸	518	82
詐欺(未遂)罪の承継的共同正犯 ——最決平成29・12・11刑集71巻10号535頁	仲道祐樹	519	88
危険運転致死傷罪の幫助犯 ——最決平成25・4・15刑集67巻4号437頁	佐川友佳子	520	89

中立的行為と幫助犯 ——最決平成23・12・19刑集65巻9号1380頁	西貝吉晃	521	89
包括一罪の成否 ——最決平成26・3・17刑集68巻3号368頁	田中優輝	522	84
<b>刑事訴訟法のフレームワークを考える(1)～</b>			
刑事手続と刑事訴訟法のフレームワーク——捜査と公判の関係	宇藤 崇	511	81
当事者主義		512	79
公判中心主義		513	91
強制処分法定主義		514	92
令状主義		515	94
捜査における比例原則		516	84
被疑者取調べ		517	107
被疑者の防御		518	89
捜査の構造		519	94
起訴の基準		521	97
起訴裁量主義		522	90
<b>検察実務から学ぶ刑事手続の基礎(7)(8・完)</b>			
公判手続その3——公判準備③及び公判期日①	唐木智規・煙山 明	511	106
公判手続その4——公判期日②		512	85
<b>演習</b>		<b>毎号</b>	
憲法	尾形 健		
行政法	田中良弘		
民法	林 誠司		
商法	柳 明昌		
民事訴訟法	秦 公正		
刑法	古川伸彦		
刑事訴訟法	緑 大輔		
<b>演習(レポート)</b>		<b>隔月</b>	
国際法	藤澤 巖	514	100
社会保障法	橋爪幸代	516	104
環境法	横内 恵	518	110
刑事政策	小西暁和	520	110
国際法	藤澤 巖	522	110
<b>判例セレクト Monthly</b>			
<b>判例の動き</b>			
憲法	毛利 透	519	116
行政法	中原茂樹	519	118
民法	石田 剛	519	120
商法	田澤元章	519	122
民事訴訟法	越山和広	519	124
刑法	只木 誠	519	126
刑事訴訟法	小木曾 綾	519	128
<b>憲法</b>			
令和4年参議院通常選挙無効訴訟東京高裁判決(東京高判令和4・10・18)	武田芳樹	511	133
2021年10月の衆議院議員総選挙における投票価値較差の合憲性 (最大判令和5・1・25)	毛利 透	512	113
市庁舎前広場の集会目的使用の不許可(最判令和5・2・21)	巻 美矢紀	513	113



LGBTウガンダ人女性の難民認定(大阪地判令和5・3・15)	櫻井智章	514	117
生活保護基準引下げ違憲訴訟控訴審判決(大阪高判令和5・4・14)	武田芳樹	515	117
同性婚を認めない現行法を違憲とした名古屋地裁判決 (名古屋地判令和5・5・30)	毛利 透	516	107
旧部落を示す地域情報の公表と差別されない人格的利益 (東京高判令和5・6・28)	巻 美矢紀	517	129
市議会決議による名誉毀損と司法審査(大阪地判令和5・7・14)	櫻井智章	518	113
受刑者の選挙権を一律に制限する公職選挙法の合憲性 (東京地判令和5・7・20)	武田芳樹	519	131
同性パートナーの被扶養者性と平等原則(札幌地判令和5・9・11)	只野雅人	520	113
性別不合による法的性別変更の生殖腺欠如要件違憲決定 (最大決令和5・10・25)	西村枝美	521	119
「宮本から君へ」事件(最判令和5・11・17)	西村裕一	522	113

## 行政法

健康保険法189条1項の「被保険者の資格」に関する処分 (最判令和4・12・13)	徳本広孝	511	134
プロバイダ責任制限法と改正後省令の効力発生時期(最判令和5・1・30)	米田雅宏	512	114
裁定的関与における処分庁側からの抗告訴訟の可否(最判令和4・12・8)	中原茂樹	513	114
マイナンバー制度の合憲性(最判令和5・3・9)	飯島淳子	514	118
労災保険給付支給処分取消訴訟における事業主の原告適格 (東京高判令和4・11・29)	徳本広孝	515	118
納骨堂の所在地周辺に居住する者らの原告適格(最判令和5・5・9)	米田雅宏	516	108
退職手当支給制限処分(全部不支給)の適法性(最判令和5・6・27)	中原茂樹	517	130
トランスジェンダーの庁舎内トイレ使用に係る行政措置要求に対する人事院の判定 (最判令和5・7・11)	飯島淳子	518	114
憲法53条後段による臨時会召集に関する行政訴訟・国家賠償 (最判令和5・9・12)	原田大樹	520	114
裁定的関与における裁決の拘束力と当該裁決を前提とする関与の取消事由(最判令和5・9・4)	興津征雄	520	115
旧優生保護法に基づく強制優生手術に対する国家賠償請求訴訟 (仙台高判令和5・10・25)	大橋真由美	521	120
映画「宮本から君へ」助成金不交付処分取消訴訟(最判令和5・11・17)	興津征雄	522	114

## 民法

消費者契約法12条3項に基づく差止請求と同法10条に 規定する消費者契約の条項への該当性(最判令和4・12・12)	田中 洋	511	135
精神科病院設置者の説明義務(最判令和5・1・27)	山城一真	512	115
債権譲渡の対価としてされた金銭の交付が貸金業法2条1項と出資の受入れ、預り金及び金利等の取締りに関する法律5条3項にいう「貸付け」に当たるとされた事例 (最決令和5・2・20)	石田 剛	514	119
婚姻費用分担審判における父子関係の存否(最判令和5・5・17)	羽生香織	516	109
民法995条の「相続人」の意義(最判令和5・5・19)	栗田昌裕	516	110
破産管財人による債務の承認と消滅時効の中断(最決令和5・2・1)	田中 洋	519	132
第三者による請負代金債権の侵害の有無(最判令和5・10・23)	鳥山泰志	521	121
性同一性障害者特例法における生殖腺除去要件の違憲性 (最大決令和5・10・25)	白須真理子	521	122
特別寄与料の負担割合と遺留分侵害額請求(最決令和5・10・26)	白須真理子	522	115

## 商法

地面師詐欺被害への取締役の対会社責任(大阪高判令和4・12・8)	得津 晶	511	136
取締役会による取締役退任慰勞金の減額支給決定に対する損害賠償 (福岡高宮崎支判令和4・7・6)	田澤元章	512	116

役員報酬支払と分配可能額規制の実質的潜脱及び事実上の取締役の任務懈怠責任(東京地判令和4・7・14)	田澤元章	513	115
株式会社の解散の訴え(東京地立川支判令和4・9・9)	伊藤雄司	514	120
頭数要件による株主総会定足数を定める定款規定の有効性(東京高判令和4・10・31)	得津 晶	515	119
総数引受契約の無効による募集株式発行の不存在(大阪高判令和3・11・11)	田澤元章	516	111
譲渡制限株式の評価(最決令和5・5・24)	伊藤雄司	516	112
二段階取引における株式買取請求に係る「公正な価格」(東京地決令和5・3・23)	潘 阿憲	517	131
「反対株主」の意義(東京高決令和4・6・17)	伊藤雄司	518	115
米国会計基準違反における取締役・執行役の対会社責任(東京地判令和5・3・28)	得津 晶	519	133
株主の破産と新株発行無効の訴えの当事者適格(仙台高判令和5・5・25)	中東正文	520	116
株式買取請求権の行使における反対通知(最決令和5・10・26)	小柿徳武	521	123
デッドロック状態の株式会社における解散の訴え(東京高判令和5・3・9)	石川真衣	522	116

## 民訴法

子の引渡しを命ずる審判を債務名義とする間接強制の申立てが権利の濫用に当たらないとした事例(最決令和4・11・30)	堀 清史	512	117
執行手続を停止せずに行われた執行処分の効力(最判令和5・3・2)	越山和広	514	121
338条1項1号の再審事由に該当する違法と控訴の利益(最判令和5・3・24)	濱崎 録	515	120
差押命令送達前に第三債務者が電子記録債権を発生させた場合において、転付命令送達後に当該電子記録債権の支払いがあったときの、転付命令の弁済効(最決令和5・3・29)	堀 清史	516	113
遺言の内容に反する登記の抹消請求訴訟に関する遺言執行者の原告適格(最判令和5・5・19)	越山和広	517	132
婚姻費用分担の審判の前提事項たる父子関係存否の判断(最決令和5・5・17)	濱崎 録	518	116
破産管財人による債務の承認とその職務遂行の範囲(最決令和5・2・1)	伊東俊明	520	117
離婚請求に附帯する財産分与の申立てがされた財産の一部につき裁判を先送りすることの許否(最判令和4・12・26)	工藤敏隆	521	124
本人訴訟を提起した拘置所に収容されている死刑確定者の不出頭と訴えの取下げ擬制(最決令和5・9・27)	池田 愛	522	117

## 刑法

他人のクレジットカード情報の不正利用と私電磁的記録不正作出罪(東京地判令和4・9・6)	和田俊憲	511	137
詐欺幫助罪の成立が認められた事例(広島高判令和4・7・27)	十河太朗	512	118
刑務所に入所する目的と不法領得の意思(東京高判令和3・7・16)	高橋直哉	513	116
誤振込金の振込委託と電子計算機使用詐欺罪の成否(山口地判令和5・2・28)	杉本一敏	514	122
建造物侵入罪の既遂時期と身体の位置(仙台高判令和5・1・24)	和田俊憲	515	121
死体遺棄罪の成立が否定された事例(最判令和5・3・24)	十河太朗	516	114
正当防衛の成否(大阪高判令和5・2・8)	高橋直哉	517	133
カードすり替え窃盗の実行の着手時期と不能犯の判断方法(東京高判令和3・10・19)	杉本一敏	518	117
無差別放火殺人における実行の着手(東京地立川支判令和5・7・31)	和田俊憲	519	134
解離性同一性障害と責任能力判断(山口地判令和5・6・15)	東條明德	520	118
中止行為の態様と任意性(東京地判令和5・3・15)	松原芳博	521	125
自動車事故における過失の判断(名古屋高判令和5・9・5)	齊藤彰子	522	118

## 刑訴法



押収拒絶権が行使されたにもかかわらず捜索が実施されたことの違法性が争われた事例(東京地判令和4・7・29)	佐藤由梨	511	138
任意同行中に、弁護人との電話連絡を制限したことに弁護人依頼権を侵害する違法があるとされた事例(札幌地判令和4・4・27)	丸橋昌太郎	512	119
警察内部の事情聴取における黙秘権不告知と自白の任意性・信用性(東京高判令和4・9・7)	黒澤 睦	513	117
日野町事件第2次再審請求開始決定に対する即時抗告棄却決定(大阪高決令和5・2・27)	佐藤由梨	514	123
訴因変更前の訴因の認定(東京高判令和3・7・13)	黒澤 睦	516	115
控訴審による第1審無罪判決破棄・有罪自判のための事実の取調べの要否(最決令和5・6・20)	佐藤由梨	517	134
ホテル管理人の承諾なく、ホテル客室に立ち入った行為が重大な違法とされた事例(大阪地決令和4・9・9)	丸橋昌太郎	518	118
保釈保証金一部没取決定に対する再度の抗告の可否(大阪高決令和4・10・11)	黒澤 睦	519	135
控訴審における事実誤認の審査(最判令和5・9・11)	亀井源太郎	520	119
破棄判決の拘束力——その範囲(最決令和5・10・11)	岩下雅充	521	126
退去強制と検察官調書(大阪高判令和3・12・3)	池亀尚之	522	119

## 海外Topics

## REPORT

早慶合同ゼミナール 人身侵害に関する諸問題——ギグワーカー・同性パートナーを素材として	中原太郎・田高寛貴・白石 大	511	140
第22回インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション	森下哲朗	522	120

## その他の記事

生きづらさに寄り添う「地域のチカラ」——第73回“社会を明るくする運動”	法務省保護局	514	124
--------------------------------------	--------	-----	-----

## 法律書ランキング

全国大学生協／丸善ジュンク堂書店(2023年1月～3月)	512	127
全国大学生協／紀伊國屋書店(2023年4月～6月)	515	127
全国大学生協／丸善ジュンク堂書店(2023年7月～9月)	518	127
全国大学生協／紀伊國屋書店(2023年10月～12月)	521	131

## Book Information

植木俊哉＝中谷和弘 編集代表『国際条約集 2023年版』	511	56
仲野武志『防衛法』	511	57
片岡総合法律事務所 編『金融法務の理論と実践——伝統的理解と先駆的視点』	511	148
道垣内正人＝中西康＝竹下啓介＝中村知里『判例百選で学ぶ国際私法』	512	95
伊藤孝夫『日本近代法史講義』	512	96
伊藤奈賀子＝河邊弘太郎＝坂井美日編『ピア活動で身につける アカデミック・スキル入門』	512	97
片山直也＝白石 大＝荻野奈緒『民法4 債権総論〔第2版〕』	513	97
犬塚 元＝河野有理＝森川輝一『政治学入門——歴史と思想から学ぶ』	513	119
飯田 高＝齋藤哲志＝瀧川裕英＝松原健太郎 編『リーガル・ラディカリズム——法の限界を根源から問う』	516	117
飯田 高＝近藤絢子＝砂原庸介＝丸山里美 編『世の中を知る、考える、変えていく——高校生からの社会科学講義』	516	118
松林哲也『何が投票率を高めるのか』	516	119
佐伯仁志＝大村敦志＝荒木尚志 編集代表『ポケット六法 令和6年版』	518	136
伊藤靖史『ケースで探索・会社法——理解を深め、もう少し先へ』	517	137
河谷清文 編著、中川寛子＝西村暢史 著『経済法』	517	138
松田岳士＝宮木康博 編著『刑事訴訟法判例集』	518	95
高田裕成＝畑 瑞穂＝垣内秀介 編『民事訴訟法判例百選〔第6版〕』	518	120

小幡純子=斎藤 誠=飯島淳子 編『地方自治判例百選〔第5版〕』	519	114
正木宏長=板垣勝彦=横田明美=海道俊明『入門行政法』	520	120
山本敬三 監修, 金子敬明=幡野弘樹=羽生香織 著『民法7 家族』	520	121
照沼亮介=足立友子=小島秀夫『一步先への刑法入門』	520	122
嶋矢貴之=小池信太郎=鎮目征樹=佐藤拓磨『刑事事例の歩き方——判例を地図に』	521	103

READER'S VOICE

毎号